

2009年3月26日

ランクセス、経済危機下においても 2008 年業績予測を達成

ランクセス株式会社

- 売上高は、65 億 7,600 万ユーロで前年度とほぼ同レベル
- 特別項目調整前 EBITDA^{*1} は、7 億 2,100 万ユーロ
- 特別項目調整前 EBITDA マージン^{*2} は 11%
- グループ純利益は、52.7%増の 1 億 7,100 万ユーロ
- 2008 年度の配当は、1 株あたり 0.50 ユーロを提案
- 経済危機対策プロジェクト「チャレンジ 09」で 2 億 5,000 万ユーロの節減

^{*1} EBITDAは、税引前利益に、減価償却費、および支払利息を加算した金額です。

^{*2} EBITDAマージンは、売上高に対するEBITDAの比率です。

ドイツの特殊化学品メーカーのランクセス(LANXESS)は、2008 年度の業績を発表しました。第 4 四半期には需要が急減したにも関わらず、ランクセスは 2008 年度の通年の業績予測を達成しました。特別項目調整前 EBITDA は、7 億 2,100 万ユーロ(2007 年:7 億 1,900 万ユーロ)で、第 3 四半期業績発表時における業績予測の範囲内(7 億 1,000 万ユーロから 7 億 3,000 万ユーロ)となりました。特別項目調整前 EBITDA マージンは、11%(2007 年:10.9%)と微増し、業界の平均水準を達成しました。ランクセスグループの売上高は、65 億 7,600 万ユーロ (2007 年: 66 億 800 万ユーロ)と昨年の売上高とほぼ同レベルとなり、事業ポートフォリオ再編と為替変動調整後の売上高は、5.9%増となりました。

利子税引前利益 (EBIT)は、49.8%増の 3 億 2,200 万ユーロ(2007 年:2 億 1,500 万ユーロ)、純利益は、52.7%増の 1 億 7,100 万ユーロ(2007 年:1 億 1,200 万ユーロ)となりました。2007 年度は、ルストラポリマーズ事業の売却による特別損失が主な要因で利子税引前利益と純利益は減少しましたが、2008 年度は、第 4 四半期が低迷したにも関わらず好業績となりました。この理由の 1 つに、原料とエネルギー費の高騰を市場に転嫁したことが挙げられます。

日本の 2008 年度売上高は約 19%増

日本法人のランクセス株式会社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:伊藤博昭)は、2008 年通年で好業績を達成しました。ブチルラバー、テクニカルラバープロダクト、セミクリスタリンプロダクト、基礎化学品、物質保護剤、ゴム薬品のビジネスユニットがこの業績を牽引し、2008 年はランクセス株式会社がターゲットとしている自動車および IT 用途の高性能製品の売上が、特に堅調な伸びを見せました。ランクセス株式会社は、継続した好業績を目指し今後も尽力していきます。

第 4 四半期の業績

自動車、皮革、建設など、ランクセスにとって重要な顧客の産業における需要は、世界的な経済危機を受け、2008 年第 4 四半期に急落しました。ランクセスもまた、この影響から逃れることはできませんでした。しかし、ブラジルで買収したペトロフレックス社のビジネスの好業績と、ランクセスの「販売量よりも価格を優先する (price-before-volume)」という一貫した戦略により、ランクセスの第 4 四半期の売上高は 14 億 6,000 万ユーロを達成し、前年同期と同レベルとなりました。第 4 四半期の特別項目調整前 EBITDA は、8,700 万ユーロ(前年同期:1 億 1,400 万ユーロ)と減少しました。これは販売量が大幅に減少したことと、市場価格の低下を受けて在庫の帳簿価格切下げを行ったことが主な要因です。特別項目調整前 EBITDA マージンは、6.0%(前年同期:7.8%)となりました。

1 株 0.50 ユーロの配当を提案

2008 年の配当提案にあたり、ランクセスが世界経済の不確定性の増大を考慮した結果、経営委員会メンバーと監査役委員会は、2009 年 5 月 7 日に開催される年次株主総会において 1 株あたり 0.50 ユーロ(2007 年:1 株あたり 1 ユーロ)の配当を提案する予定です。

事業分野別の業績

パフォーマンスポリマーズ部門: 第 4 四半期における需要急減のマイナス影響にも関わらず、2008 年通年では好業績でした。昨年末、完全子会社化した「ランクセス エラストメロス ド ブラジル (旧称:ペトロフレックス社)」の業績が初めて連結財務諸表に組み込まれたことがプラスの効果をもたらしました。従って同部門の売上高は大幅に増加し、22.4%増の 32 億 8,000 万ユーロ(2007 年:26 億 8,000 万ユーロ)となりました。また特別項目調整前 EBITDA は、4 億 1,300 万ユーロ(2007 年:3 億 7,600 万ユーロ)に増加し、EBITDA マージンは、12.6%(2007 年:14.0%)となりました。

アドバンスト中間体部門: 農薬、医薬中間体の市場が比較的安定していることが主因となり、同部門も好調でした。売上高は、8.8%増の 13 億 1,000 万ユーロ(2007 年:12 億ユーロ)で、特別項目調整前 EBITDA は、1 億 8,600 万ユーロ(2007 年:1 億 7,400 万ユーロ)、EBITDA マージンは、14.2%(2007 年:14.5%)となりました。

パフォーマンスケミカルズ部門: 第 4 四半期の低迷は、同部門のほとんど全てのビジネスユニットに影響を及ぼし、通年で収益減となりました。売上高は、19 億 3,000 万ユーロ(2007 年:19 億 7,000 万ユーロ)と減少し、特別項目調整前 EBITDA は、2 億 4,100 万ユーロ(2007 年:2 億 8,500 万ユーロ)、EBITDA マージンは、12.5%(2007 年:14.5%)となりました。

ランクセスは、全ビジネスユニットにおいて、2008 年通年で 5%以上の EBITDA マージンを達成しました。

健全な財務ポートフォリオ

ランクセスは、バランスの取れた借入金の満期構造にある健全なクレジットポートフォリオを持ち、さらに投資適格の格付けにも変更はありません。「ランクセス エラストメロス ド ブラジル」の買収後、2008 年度末の純債務は 8 億 6,400 万ユーロ(2007 年:4 億 6,000 万ユーロ)に増加し、2011 年 4 月がその融資返済期限となります。ランクセスは、豊富な手持ち資金と約 17 億ユーロの長期信用枠を持つため、債務の借換えが滞るという、いわゆるリファイナンスリスクはありません。

今後の見通し

昨今の金融危機は、ほぼ全ての業界に影響を及ぼし、世界的な景気後退へと発展しました。それまで成長市場にいたランクセスの多くの顧客における産業にも影響を与え、成長率が減退しました。

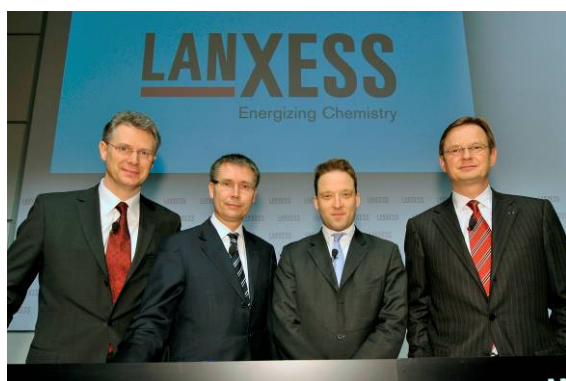
ランクセスでは、2009 年の第 1 四半期においては、2008 年第 4 四半期を越える収益は見込めないとみています。3 部門全てが現在の景気低迷により、度合いの差はあれ影響を受けると予測していますが、パフォーマンスポリマーズ部門は、特に強い影響を受けると見えています。アドバンスト中間体部門は、比較的市場の影響を受けにくい、安定した農薬、医薬中間体ビジネスを展開しているため、著しい減少は予想されていません。

ランクセスでは、好転あるいは需要回復の兆しは現状、見えていないと考えており、グループ一丸となった経済危機対策プロジェクト「チャレンジ 09」により、現在の危機的な状況に迅速かつ断固として対処していきます。このプロジェクトの取組みによって、今後 2 年間で 2 億 5,000 万ユーロの節減を目指し、予測される需要減少による影響を軽減します。

ランクセスは柔軟性ある工場運営に特に注力することで、不採算製品の製造量を削減します。全体でも 100 以上の対策に着手しており、その中には人事分野で予定されている 6,500 万ユーロの削減も含まれ、すでに従業員代表との同意を得ています。

主要データ(単位:百万ユーロ)

	2008年 通年	2007年 通年	変動率 (%)	2008年 第4四半期	2007年 第4四半期	変動率 (%)
売上高	6,576	6,608	-0.5	1,462	1,465	-0.2
利子税引前利益	322	215	+49.8	(46)	5	
特別項目調整前 EBIT	461	472	-2.3	24	51	-52.9
EBITDA	601	513	+17.2	30	67	-55.2
特別項目調整前 EBITDA	721	719	+0.3	87	114	-23.7
特別項目調整前 EBITDAマージ ン	11.0	10.9		6.0	7.8	
純利益	171	112	+52.7	(41)	5	



ランクセス経営委員会メンバー



ランクセス CEO のアクセル・ハイトマン

#

このリリースは、ドイツ・レバークーゼンで3月18日に発表されたリリースをもとに、ランクセス株式会社が発表したものです。

このリリースの原文(英語)は、以下のURLにてご参照下さい。 <http://www.press.lanxess.com>

ランクセスについて

ランクセスは、世界21カ国で事業を展開する大手特殊化学品メーカーです。2008年の総売上は65億8000万ユーロにのぼり、全世界の従業員数は約 14,800人、世界中に44の拠点を展開しています。主な事業は、プラスチック、合成ゴム、中間体、特殊化学品の開発、製造とマーケティングです。ランクセスについての詳細は同社URLにてご確認ください。 <http://www.lanxess.co.jp>

本件に関するお問い合わせ先:

ランクセス株式会社 コーポレートコミュニケーションズ

佐野 公美

TEL : 03-5293-8005 FAX : 03-5219-9773

kumi.sano@lanxess.com

免責について (Forward-Looking Statement):

このニュースリリースには、ランクセス経営陣による現在の仮定と今後の予測に基づく記述があります。既知あるいは未知の各種リスクや不確定性、その他の要素により、本頁に記載された予測と弊社の今後の総合売上高、財務状況、業績の数字が異なる場合があります。弊社は、ニュースリリースの記載事項を更新、もしくは今後の出来事や進展状況に合わせ、内容を変更する義務はないものとします。

(2009-00047J)